

松山市立港山保育園の休園について

令和元年5月30日

▼施設概要

項目	内容
所在区域	北西部
所在地	新浜町9番29号
利用定員	60名(2号:44人、3号:16人(内訳:0歳:0人、1, 2歳:16人))
開設年月日	昭和42年4月1日
建築年月日	昭和42年3月29日
施設の構造	木造平屋建
敷地面積	1,542.00平方メートル
建坪面積	396.77平方メートル
在園児数 (平成31年3月末時点)	5歳児:5名のみ
実施中の 地域子ども・子育て支援事業	・延長保育事業(対象:在園児) 平成31年3月末時点利用実績:0人 ・一時預かり事業(対象:3歳児以上) 平成31年3月末時点利用実績:1人

▼休園の経緯

(1)ハード面

- ・園舎は、昭和42年に建設された木造平屋建てであり、旧耐震基準の建物である。

(2)ソフト面

- ・同園は、在園時数が年々減少し、平成30年度では、5歳児5名のみが在園していた。また、一時預かり事業も利用者の減少に伴い、平成30年度から一般型から余裕活用型へ類型を変更するとともに、対象年齢を3歳以上に引き上げたが、平成30年度末時点で利用人数は1人となっている。
- ・平成31年度と同園の入園希望者は0名で、平成30年度の在園児が卒園し、在園児も0名となった。
- ・一時預かり事業は周辺の私立保育所等で実施しているだけでなく、平成30年度からは、同地区にある「松山市立高浜保育園」でも実施しており、受け入れが可能な体制を整えている。

(3)待機児童の状況

- ・同園がある市内北西部の待機児童数は、「子ども・子育て支援新制度」施行後も平成29年度まで0名、平成30年度は1名、とほぼ解消されている状況にある。

(4)松山市社会福祉審議会からの答申

- ・「松山市社会福祉審議会児童福祉専門分科会」にて、平成29年2月に「公立保育所の方向性について」の中で、「港山保育園は廃園とし、高浜保育園で機能を補完すべきである」と答申を受けている。

以上、(1)～(4)の多角的な視点及び子どもの安全・安心を踏まえ、総合的に勘案し、平成31年4月1日から「松山市立港山保育園」を休園とした。

ただし、休園中も、必要に応じ、子どもの受入れが可能な状況であることから、休園中に限り、利用定員数は現在のままとする。

また、平成30年10月に地元の方(園を利用する保護者、地元関係者)に、「休園について」と「今後の予定」を説明済み。

※休園については、令和元年5月23日(木)に開催した、松山市社会福祉審議会児童福祉専門分科会でも報告済み。

～参考資料～

▼港山保育園の在園児数の推移(平成27年～平成30年)

※各年4月1日時点

	27年	28年	29年	30年
3歳児	9人	3人	0人	0人
4歳児	4人	8人	6人	0人
5歳児	12人	5人	8人	5人
合計	25人	16人	14人	5人

▼北西部の待機児童数の推移(平成27年～平成30年)

※各年4月1日時点

	27年	28年	29年	30年
合計	0人	0人	0人	1人

市立港山保育園の休園について

▼北西部にある周辺の認定こども園及び保育所の状況

区分	園名	利用定員 (2号、3号合計)	受け入れ 児童数 (2号、3号部分)	一時預かり 実施有無
公立認定こども園	もものはなこども園	45人	5人	1歳以上
私立認定こども園	愛隣こども園	60人	71人	1歳以上
公立保育所	高浜保育園	40人	17人	1歳以上
	中須賀保育園	120人	120人	—
私立保育所	小富士保育園	120人	124人	—
	済生会松山乳児保育園	60人	51人	—

※30年4月1日時点(ただし、廃園となった「宮前保育所は」除く)

※同区域内には、認定こども園及び保育所以外に、市立幼稚園1園、私立幼稚園2園あり

▼「松山市社会福祉審議会児童福祉専門分科会」での「公立保育所の方向性について」答申(抄) (平成29年2月答申)

○各公立保育所の位置づけ

(3)統廃合の検討が必要な保育所

入所児童数が慢性的に減少傾向あり、地理的要因などから、今後も児童数の回復が望めない園や、周囲の環境条件等から、施設改修が難しい園は、統廃合についての検討が必要になると思われます。具体的には、次の園が位置づけられます。高浜・港山・東雲

【統廃合の検討が必要な保育所の方向性】

港山保育園については、園舎が耐震基準を満たしていないことから、できるだけ早期に対応する必要があるため、以下の方向性で進めていくべきであると考えます。

・港山保育園を廃園とし、高浜保育園で機能を補完する。

港山保育園の近隣の北西部区域には、高浜保育園の他に、公立保育所1園と私立保育所4園があり、港山保育園の利用を希望する児童は、これらの保育所を分散して希望すると想定されるため、十分に受入れ可能と考えます。また、現在の港山保育園と高浜保育園の定員及び入所状況から、仮にすべての港山保育園の入所児童が高浜保育園に移っても受入れが可能です。

建物については、高浜保育園のほうが新しく、耐用年数の長い鉄筋コンクリート構造であり、耐震性も確保されているのに対し、港山保育園は、建築が高浜保育園より古く、構造も耐用年数の短い木造であり、耐震性能も不足しています。

以上のことから、港山保育園は廃園とし、高浜保育園で機能を補完するべきであると考えます。

ただし、高浜保育園については、現在、港山保育園で行っている一時保育を引き継ぐことや、地域での子育て支援機能のより一層の充実を進めていくなど、施設の充実を図る契機としていくことを希望します。